令和7年度(2025年度) 学校評価総括表　　【伊丹市立瑞穂小学校】

教育目標	「いのち」かがやく 瑞穂の子 ～心豊かに たくましく～
重点目標	1確かな学力の向上 2豊かな心づくり 3体力の向上 4学年・学級経営の充実 5家庭・地域・関係機関との連携 6教職員の育成

主要施策	施策目標 基本施策		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・基礎的・基本的な知識・技能の習得 ・読書活動の充実 ・学習形態を工夫し、思考力・判断力・表現力の向上を図る ・学びを深め合う学習集団づくりに努め、学習意欲の向上を図る	・教科担任制が進められるような時間割を組み、子どもたちにより専門的な授業を行えるように工夫する。 ・教科横断的な授業が組めるよう、カリキュラムマネジメントを進める。 ・主体的な学びにつながるよう、「一人学び」「グループ学び」「全体学び」の授業構成を仕組む。 ・考えが深まる話し合いになるための「手立て」を考える。 ・つけたい力を明確にした授業を行う。系統指導の徹底。 ・さわやかタイムを活用し、語彙力を高める学習を行う。 ・毎週水曜日全クラスで朝読書を実施する。 ・学級文庫、学年ブックトラックの本の充実。 ・読書記録カード、読書の掲示、表彰などの取り組みを行い、読書に興味を持たせる。	・児童アンケートで『授業はわかりやすく楽しいですか』という質問に対して肯定的回答の割合が90%以上になる。(研究) ・児童アンケートで『読書することを楽しめていますか』という質問に対して肯定的回答の割合が80%以上になる。 ・読書冊数が1人あたり、一年間で50冊以上になる。	A	・『授業はわかりやすく楽しいですか』という質問に対して肯定的回答が92%であった。(2ポイント上昇) ・『読書することを楽しめていますか』という質問に対して、肯定的回答88%であり、おおむねの児童が50冊以上読書している。電子図書の導入もあり本への興味が少し増えた。	・来年度も全校で学力向上プランを重点的に取り組んでいく。 ・引き続き、子どもたちがすぐに本を手に取ることができるような環境整備を続けていく。 ・授業で本を活用しやすいように、調べ学習用の本を保管している第2図書室の整備を行ったり、電子図書を利用していく。	・「授業がわかりやすく楽しい」と感じている子どもが多数いる事は、先生方の授業改善等への努力の表れだと思い、感謝する。 ・自分で問いを見つけ出す探求でつながる授業が増えてきている。グループ学びが低学年から取り入れており、来年度もさらに期待する。 ・目標は達成しているので、さらに具体施策の個々の成果と課題を検証して、次年度につなげていただきたい。 ・図書館に子どもたちが興味を引く様々な本が揃っている等、読書環境を整えて本に触れる機会を作りながら、読書の楽しさを知る子を育てていただいていることに感謝。読解力や語彙力だけでなく、豊かな感性を育む土壌ができていると感じる。 ・電子図書の導入が活字への抵抗感を減らす現代的な方法だが、紙をめくる良さも大切にしてほしいので、ブックトラックの活用等はぜひ続けてほしい。 ・家庭目線では、毎日子どもの宿題と読書カードの運用や教科書を音読する習慣等があり、自ら積極的に学び読書して基礎学力の向上を図られていると感じる。 ・1人学びにあたる宿題の量は少ないのではないかとも思う。東中学校ブロック各校の宿題の量や考え方の情報交換等を行ってみても良いと思う。
		新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・児童の情報活用能力の育成 ・教師の情報活用能力の育成 ・英語教育の充実 ・デジタル化の促進	・タブレットの操作などにおいて、教師・児童の情報活用能力を高める研修を行う。 ・情報教育の年間カリキュラムを作成し、それに基づいて授業を行う。 ・JTEやALTと連携し、必然性のある言語活動を軸に授業が行えるようにする。 ・デジタル教材を多用し、視覚的に学習を進める。	・児童アンケートで「タブレットを活用した授業は分かりやすい」と回答した割合が、80%以上になる。また、教職員アンケートで「ICT機器(タブレット)を活用した教育活動を行っている」と回答した割合が80%以上になる。 ・児童アンケートの「外国語活動・英語の学習は楽しい」と回答した割合が80%以上になる。	B	・「タブレットをつかった授業はわかりやすいですか」という質問に対して、肯定的な回答が93%であった。 ・教員のICTの活用については、肯定的な回答は79%であった。 ・課題として、年間カリキュラムの活用を広めていくことがあがった。 ・「外国語活動の学習は楽しいですか」という質問に対して、肯定的な回答が83%であった。	・引き続き、ICTの活用を推進していくとともに、まなびポケットなどの新しいことの周知や研修をしていく。 ・AppleTV等の活用を通じて、ICT機器の活用を促していく。 ・まなびポケットの機能(板ショット・心の健康観察)を職員に周知し、授業等で活用を促す。 ・養護教諭や司書教諭などにもタブレットを提供し、全職員がICT機器を使用できる環境を整備する。 ・引き続き、必然性のある言語活動を軸にして、必要に応じてグループ　活動を重視、タブレット教材を使いながら実践的内容を盛り込んだ授業を行っていく。	・ICTの活用は、子どもも教員も当たり前にようにできるようになってきた。 ・デジタルとアナログの最適なバランスが必要である、タブレット活用と、ノートに書く・教科書を読むなど、ICTと人との対話の両方を大切にした授業をされていて、とても良い。 ・タブレットを学習以外での使用検索サイトからYouTube動画サイトへ移り、長時間閲覧をしていることもあり、家庭でも制限を検討している。
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・道徳の時間を要して、体験活動の充実を図り、道徳的実践的・自尊感情を育む ・いじめ問題への対応力の向上	・道徳の時間の充実(道徳と人権教育の授業参観をそれぞれ年1回以上実施) ・児童の共通理解の場をもつ。 ・教師自身の人権感覚を磨くため、研修に参加する。 ・いじめ等に関する実態把握のためのアンケート調査を実施することで実態把握を行い、迅速な対応を行う。また、いじめ予防のために、学校のきまり(瑞穂小のきまり)を基にした研修会を行う。	・児童アンケートで「学校へ行くのが楽しいですか」という質問に対して肯定的回答の割合が90%になる。	B	・道徳と人権教育の授業参観をそれぞれ年1回以上実施した。 児童アンケートでは、「学校は楽しいか」の項目で94%が肯定的な回答をしており、目標を上回った。 ・学校のきまり(瑞穂小のきまり)を通して、学校全体で同じ視点をもち、子ども達を見守ったり、いじめや児童生徒の早期発見につなげたりすることで、いじめの未然防止、早期発見、早期対応をすることができた。 ・長期欠席児童については、ほぼ昨年度と同様である。	児童アンケートでは、、肯定的回答ではない6%の児童がいることを忘れず、児童に寄り添っていくことが必要である。	・学校に行くのが楽しいが94%に大きな安心感がある。 ・一方で、6%の児童が楽しくないと感じる事は重いと感じる。SOSをどのように見つけ、誰がどの対応していくのが具体的に考えていく必要がある。 ・子どもには、大人の背中を見せることが重要。 ・いじめや不登校など様々な課題解決に向けて小中連携が必要。 不登校対策の充実が大切である。学校へ行きたがらない子の居場所づくりや声かけ等、一人一人にあった対応を続けて欲しいです。
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	・体力向上と健康の保持増進	・学年ごとに体力を向上させる運動を年間通じて実施し、体力向上に努める。 ・基本的な生活習慣について、保健や食育等の時間を中心に日々の生活の中で指導を継続的に行う。 ・保護者と協力しながら早寝・早起き・朝ごはんの指導にあたる。 ・アレルギー対策委員会や研修を年間2回以上ひらくことで、職員の共通理解を深める。	・体力作りの取り組みを実施し、多様な動きを身につけさせるとともに、全国の平均の数値を目指す。 ・児童アンケートで『毎日、早寝早起きをし、朝ご飯を食べていますか』という質問に対して肯定的回答の割合が85%以上になる。 ・給食アレルギー対応プランの確実な実施のためのシステムを構築する。	B	・カリキュラムに多数の運動領域を取り入れた。一方で全国体力調査の平均を上回った項目が1つだけであった。 ・児童アンケートで早寝・早起き・朝ごはん調査で、肯定的回答は、82%(昨年度84%)児童保健委員会の調査で、特に睡眠時間に問題があることがわかり、児童保健委員会活動や掲示物、ほけんだよりなどで情報発信・啓発をした。 ・アレルギー対策委員会と研修を年間3回行った。アレルギー対応プランに沿って、大きな事故なく給食を実施できた。	・運動習慣を身につけるような働きかけを続ける。また、次年度以降、委員会で「運動することは好きですか？」などのアンケートを取り、割合を調査することを検討する。 ・「睡眠」にスポットを当てた指導や啓発を行い基本的生活習慣の定着につなげていく。家庭での取り組みが要となってくるので、ほけんだよりの活用など、より一層の啓発に取り組んで行く。 ・引き続き委員会や研修等を通して教職員の共通理解を深め、安全な給食の実施に努める。	
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実		・キャリア教育の推進 ・一人一人の子どもにとって、「心の居場所」のある学級作りの実践	・キャリアパスポートを活用し、一年ごとの成長を記録するとともに、定期的に自分の成長を振り返る機会を作り自己肯定感を高める。 ・必要な児童がSCを活用し、心の安定を保てるように働きかける。	・児童アンケートで「自分には良いところがあると思っている。」と回答した割合が80%以上になる。 ・SCについて職員に周知し、積極的に活用する。	A	・児童アンケートで、達成目標である80%以上の84%が「自分にはよいところがあると思っている」と回答があった。	・昨年度より肯定的回答が増えたが、児童アンケートでは肯定的回答ではない、16%の児童がいることを忘れず、子どもたちが自分に自信を持てるような関わりや指導を継続していくことが必要である。	・自尊感情は学習意欲にもつながり全ての土台となる。改善策にあるちょっとした声かけ・認める・褒める等の積み重ねが大切である。 ・肯定的回答でない児童が改善できるように、SCと連携してその原因を注視して対応をお願いしたい。 ・家庭でキャリアパスポートにコメントした。1年間での成長は大きく、できることを中心に励ますものとしても利用した。 ・自尊感情学年が上がるにつれて少なくなってくる。授業や行事等の教育活動を通して、一人一人の良さが発揮できる場面設定が必要。またそれを中学校でも継続できるように小中連携が重要。

	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・特別支援教育の充実 ・一人一人の教育的ニーズを把握し、関係機関と連携し、適切な教育的支援を行う	・伊丹特別支援学校センター機能を活用し、より円滑な組織づくりに努める。 ・適切に特別支援教育支援員を配置して、より充実したサポートとなるよう推進していく。 ・配慮を要する児童の特性や支援について、校内委員会や校内研修で交流し、関連機関との積極的な連携を図る。	・伊丹特別支援学校センター機能を職員に周知し、コンサルテーションの実施など、関連機関と積極的に連携する。 ・特別支援教育支援員の時間割を作成し、児童の実態に応じて、年3回以上見直す。 ・全職員が配慮を要する児童を理解するための研修会を年2回以上実施する。	A	・コンサルテーション、巡回相談、教育相談を合計30回以上行い、専門的な立場からの助言を受け、サポートファイルを作成したり、日々の指導に生かしてきた。 ・特別支援教育支援員の時間割は月別報告の実態に応じて、毎月見直しをした。 ・児童理解のための研修会を2回、講師を招いての研修会を1回実施した。	・児童の実態把握をし、必要に応じて早期に伊丹特別支援学校センター機能を活用していき、指導や支援につなげていきたい。 ・特別支援教育支援員と日々の情報交換を継続して行い、配慮を要する児童への支援をより充実させていきたい。	素晴らしい取組と成果だと思う。先生方で情報共有し、1人で抱え込まないように心がけてほしい。 子ども一人一人を丁寧に見ていただき、感謝している。 小中連携で情報共有が大切。中学校にスムーズにつなげられるようお互いに情報共有をしっかり行っていきたい。
	教職員の資質向上 ①研修等の充実	・実践的指導力の向上	・一人一授業を行い、授業力向上を図る。 ・計画的に研究授業を行い、講師の先生より授業作りについて研修する。 ・自主研修会（午後teaの会）を開き、多岐にわたって研修する。	・教職員アンケートの『計画的な授業研究と研修を行えたか』の質問に対して「そう思う」の回答の割合が50%以上になる。 ・教職員アンケートの『よくわかる授業づくりに努める』の質問に対して「そう思う」の回答の割合が50%以上になる。	A	・『計画的な授業研究と研修を行えたか』の質問に対して肯定的な回答が96%で目標を超えていた。 ・『よくわかる授業づくりに努める』の質問に対して肯定的回答が96%で、目標を超えていた。	・来年度も引き続き、具体的施策を重点的に取り組んでいく。	・児童がよくわかると実感できていることから、先生方の授業づくりが良いと可視化されている。学校全体で授業研究に取り組まっていることが感じられる。 ・研修や研究授業等で授業力を高める取組が明確に示されており、先生方が学びを止めない姿が子どもたちの最高のお手本である。教員の人材育成を引き続きお願いしたい。 ・高学年の先生では中学校との連携し、中学校とのギャップを減らす試みをしていただきたい。
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・開かれた学校づくり	・学校運営協議会を開催し、授業参観、情報交換、課題改善に向けた協議を行う。 ・授業参観やオープンスクールを行う。	・保護者アンケートで「学校は、適切に参観の機会を設けている」、「学校は、保護者の願いに応えようとしている。」と回答した割合が共に80%以上になる。	A	・保護者アンケートで「学校は、適切に参観の機会を設けている」、「学校は、保護者の願いに応えようとしている。」と回答した割合が共に90%以上を超えていた。	・学校運営協議会で、授業参観、情報交換、課題解決に向けた協議を引き続き行う。 ・授業参観やオープンスクールを行い、児童の様子を保護者や地域の方に知ってもらう。	・アンケート結果から、保護者からの信頼が非常に高く、取組の成果が感じられる。 ・参観やオープンスクールで、担任の先生の日々の関わりや友人関係が見られてよかった。 ・地域懇談会のPTAの協力はとても良く、地域としてもしっかりやっていく。年々学校が開けていると感じる。来年度も期待している。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・安全に留意し、落ち着いた学校生活の整備	・年に1回防犯・防災訓練を行う。 ・年に1回火災訓練を行う。 ・学期に1回登校指導を行う。1学期に引き渡し訓練、一斉下校を行う。 ・1ヶ月に1回教室等の整備を確認・報告する。該当箇所のある場合、技能員に報告し維持保全に努める。 ・週に1回定時退勤日を守れるように努める。年に1回労働安全衛生委員会を開き、働き方改革をしていくように努める。	・児童アンケートで「災害が起きたときにどのように行動すればいいか知っている」、と回答した割合が85%以上、「知らない人に声を掛けられそうになったり、おそわれそうになったりしたときに、どうしたらいいか知っている」と回答した割合が85%以上になる。 ・保護者アンケートで、「あなたのお子さんは、災害時の行動の仕方を身に付けている」と回答した割合が40%以上、「あなたのお子さんは、不審者に対する対応の仕方を身に付けている」と回答した割合が30%以上になる。	B	・児童アンケートで「災害が起きたときにどのように行動すればいいか知っている」の回答が66%（**昨年77%）** 「知らない人に声を掛けられそうになったり、おそわれそうになったりしたときに、どうしたらいいか知っている」の**回答が83%。（昨年86）** 目標は達成していないが、肯定的な回答（ややそう思うを含む）はともに90%をこえていたので、意識は高まっているように感じている。 ・保護者アンケートで「あなたのお子さんは災害時の行動の仕方を身に付けている」の**回答が21%（肯定的72%）**、 「あなたのお子さんは不審者に対する対応の仕方を身に付けている」の**回答が22%（肯定的76%）**で、児童と保護者の感覚の違いがあった。学校が行っている訓練の認知度が低いのではないかと考えられる。	・「ややそう思う」を「そう思う」にしていくために、児童を含めた訓練を続けていく。避難訓練の前後だけでなく、普段から災害時に取るべき行動などを伝えていく。 ・災害の訓練や不審者訓練後、学校で学んだことを家でも自分のことばで家族にアウトプットすることで、家庭も含めて対応について考えてもらうように促す。 ・保護者のアンケートでは、「不審者に対する対応の仕方を身につけていますか」の文言が、登下校のときの不審者なのか、学校にいる時の不審者なのか困惑したのかもしれないので、来年度文言を訂正していく。 ・訓練の様子を学校だよりや教室で振り返りをし、子どもが家でお家の人と対応について考えるように伝える。	・様々な災害や犯罪からを身を守ることを子どもたちに伝える事はとても重要である。 ・休み時間に避難訓練を行うことは良いことである。教員も様々なケースに対応できるような対策が不可欠である。 ・災害訓練は、学校任せではなく、家庭でも定期的に話すようにしたい。保護者目線でも、自分事として捉えて様々な想定されるリスクへの対応策を備えて定着を図りたい。 ・実際に、大人が動けない、避難場所を使えない、放送機が使えない等、想定外のシミュレーションも必要である。 ・地域もしっかり連携していく。 ・4月からは交通ルールが変わるので、自転車マナーの向上が懸念される。家庭教育との両輪で、推進をお願いしたい。 ・登下校の見守りは、保護者の旗当番だけでは難しい面もあり、スクールガード等で地域の目が増えると大変ありがたい。

・各項目に対して適切な施策を考え実行しており、良好な学校経営と感じる。目標に向けた取組内容は適切である。良い成果を得られており素晴らしい。継続していただきたい。
・先生と委員との合同会では、先生方が明るくまとまっている感じがあり、この空気感が良かった。子どもを教育する教員の人材育成は継続してお願いしたい。
・全体的に達成しているが、豊かな心や教育相談支援対象の項目では肯定的ではない回答にも注意する必要がある。
・重要課題である不登校の取組が少し気になる。
・安全安心な教育環境について、災害時の行動の仕方は、子ども自身で判断し行動する場面が出てくる。学年ごとに子ども自身が考えられる教育が大切であると考える。

・改善内容はより具体的な内容を示すとより効果が期待できる。学力・体力・自尊感情の向上などへ、さらなる推進を期待する。
・子どもたちの安全のためにも、地域も共に子どもを育てる環境整備を進めたい。ボランティアも入った授業が各学年1つ以上あると、子どもも安心して活動ができる。来年度も相談してさらに支援したい。
・不登校対策等についても、小中一貫で東中学校・緑丘小学校と連携して良い方向に進むことを期待している。
・安全指導や生活習慣、自己肯定感等は学校だけでは解決が難しいので、家庭や地域も関わり共に子どもたちの意識向上に努めたい。

自己評価の基準　**A**：目標を上回った　**B**：目標どおりに達成できた　**C**：目標をやや下回った　**D**：目標を大きく下回った